

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松 (北ユニット)		
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	平成31年1月12日	評価結果市町村受理日	平成31年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail%2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2297100253-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度は、西館の交流室も含め、地域の方に出入りしやすい場所の提供をしていくため、認知症養成講座としての場所の提供を行ったり今年度は、ご家族同士の交流ができるよう職員を交えての親睦会を行いました。施設も16年目と言う事もあり、入居者様の入れ替わりもありました。在宅を離れ施設への入居を考えるに当たり様々な葛藤がある中、家族同士の話し合いができ、家族の想いが聞けたことはとても有意義だったと思います。今後も入居者の介護度は重度化していきます。ご本人や家族の想いに親身に寄り添い、さらにで過ぎてよかったと感じて頂けるような生活のお手伝いができればと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「在宅での介護を経て入居を決めた複雑な想いを分かち合えたら」とスタートした家族親睦会は、本年度年1回が2回と増えています。その場で職員が介護に就いた想いを述べたことも、家族にとっては親近感となり、また一つ親交が深まっています。また運営推進会議で地域の高齢者への心配が多々話題となり、新事業所開設では多目的利用ができる『地域交流室』を設け、第2・第4土曜日を地域に開放し、無料ドリンクサービスや民生委員によるワンコインランチ、200円で使えるフィットネスマシンや電磁治療器に毎回30名以上が賑わい、家庭と地域、事業所へと境目のない予防と介護が実現し、新しいコミュニティの形を示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は見えるところに掲示し、意義を職員全員で意識し、尊敬と共感の気持ちを忘れず笑顔あふれるグループホームを目指しています。	課題のある利用者について協議する機会が重なり、その場を通じて本人本位の姿勢が育っていることが、職員の成長と管理者は自負しています。本年度の事業計画に掲げた「職員参加で改善に～」は、全体会議終了後に個々に綴る内容にも達成度が確認されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りに参加したり、施設の駐車場を休憩所として提供したりしている。地域の保育園や子供会の子供たちとも行事を通して交流しあえる機会をもっている。	敬老会では園児の演舞披露と握手が涙を誘い、祭り屋台のお囃子やらっぱ隊の来訪とともに法被姿の子どもたちの練りもあり、利用者も神社の露店で焼きそばやビールで愉しみます。他にも中学生の体験受入れ、高校生のふれあいボランティアは年間延べ80名余になります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の介護体験やボランティアの受け入れを積極的に行っている。地域の方に向けた認知症の勉強会を開催したり、認知症養成講座の開催に場所を提供させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、日常生活の報告をしたり、ご家族・地域・区役所からの意見を日々の生活や楽しみに活かせるようにしている。	合同防災訓練に参加くださったうえで「役割の指示を出せる人が欲しかった」といった苦言がもらえたり、水害マニュアルを作成するときも「ここまでは水がかかるよ」と住民ならではの意見を寄せてくださる等、開設から16年目の年輪もあって建設的な意見交換の場として昇華しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の疑問や介護保険のことなど、運営推進会議で相談したり、分からないことは随時連絡して聞くようにしている。	介護保険課とは普段は電話でやりとりし、運営推進会議で顔を合わせることも少なくなっていますが、本年の実地指導では厚生労働省の視察への協力要請にこたえており、円滑な関係が築けていることが視えます。またグループホーム連絡協議会でのヨコの連携にも尽力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を年2回行い、3ヶ月に一回の委員会では事例や対応方法などを話し合い共有し合うようにしている。玄関の施錠は日中に時間を決めて開放している。	これまで利用者の症状に対応しかねることから、やむなく玄関施錠がありました。職員意識の形骸化も心配され、9時半から15時半の開錠に至っています。また本年度法改正の身体拘束廃止委員会の設置及びその運営も速やかに実際されていて、安心な体制にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行うとともに働きやすい職場環境づくりに努め、虐待に繋がらないよう話し合い、相談したりし合えるように気を配るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は勉強会は行えていないが、資料配布し、個人の尊厳を守る重要性を伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、疑問に答えながら納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意向調査を行ったり、面会時には出来る限り情報交換をしている。家族会や親睦会などでは要望をお聞きし反映できるよう努めている。	親睦会で家族同士の親交を促進するほか、佐鳴湖花火大会や豊橋市動植物園等へ家族も誘って出かけ、自然に親子が手をつないだり、「何十年ぶりかなあ～、親と動物園きたのは…」といった声が零れるなど、家族が何気ない意見を言える環境をつくっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回アンケートを行い、希望者には個別で話す機会を設け、意見を聞けるようにしている。	係の制度があることから、管理者が職員本人に「あれはどうなってる？」と考える材料を与えて、会議で意見を擁立しやすいよう支援しています。安全衛生委員会が運営する毎月の会議には産業医も出席し、働き方については是正への仕組みも堅固です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や安全衛生委員会を中心に残業や有休の取得状況を確認し、就業環境の整備に努めている。全職員のストレスチェックも行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加する機会を設け、研修内容については会議で伝達し、職員全体で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修に参加し、意見を聞いたりすることで、サービスに活かせるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とお話しさせていただき、不安な事やどのような生活をしたいかなど聞かせていただき関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、家族の想いをお聞きし、丁寧な対応を心がけ、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人はもちろん、ケアに携わる方から情報を集め、必要とされる支援を見極め、その時に適したケアの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を作ったり、買い物・掃除など家事を共にすることで、楽しく家族のように暮らせる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の情報を提供し一緒に過ごせる時間を作ったり、家族同士・職員ともお互いに支えあえる関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊はいつでも出来るよう声掛けさせていただいたり、個別外出では、馴染みの場所や好きな所に出かけている。行きつけの美容院の方が散髪に来て下さる方もいる。	エアロビクスに通っていた頃の後輩と出かけたリ、感染症の時節以外はスーパーマーケットへの買い物に職員と出かけるほか、以前には家族だけでは外出が心配というので職員が付添った例もあります。また調理師免許をもつ人は率先してキッチンに入って手伝っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの性格を把握し、常に良い関係性が保てるよう職員が間に入ることでバランスを取りながら関係づくりをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、近隣の方は必要な新聞や布を持って来て下さったり、ボランティアや行事などに来て下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、利用者と向き合い意向や状態の把握に努めている。職員同士も情報交換し生活に活かせることを話し合っている。	利用者と職員は会話をもちながら何かをすることが自然に出来ていることを視認しました。契約の段階で作成したアセスメントシートを都度書き換えることはないものの、日課表(3表)の中に变化を入れ込んでいて、介護計画書を共有しつつ本人本位の暮らしを支援しています。	入居では嗜好調査をおこなっていますが、食べたいものや行きたいところを定期的に聞き取る仕組みがあると、なお良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に収集した情報や面会時などご家族にお話を伺ったことなどを参考に、さまざまな方向から支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や言葉など、変化を見逃さないよう情報を共有し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいて、課題やケアについて振り返り、本人や家族の意向を確認しながらケアに反映できるようしている。	『その人にとって必要なこと、何かプラス支援することでその人ができること』を網羅したシートを居室担当者が予め用意、毎月の会議に臨んでいます。その中でカンファレンスの時間を設け、ユニットに分かれて9名全員について協議し、介護計画書やモニタリングにも反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスにおける情報を参考に、モニタリングや介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リアルタイムで生まれるニーズを見逃さないよう柔軟な個別対応ができるよう努めている。コーヒーチケットを購入し、希望時に美味しいコーヒーを味わうなどしている方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生や地域のボランティアの方などとの交流により、刺激を受け日常を豊かに過ごせるよう協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医を決定し、受診している。担当医による月二回の往診と緊急時の連絡体制を確保している。	協力医には14名が変更し、4名は在宅の頃からの医師へ家族支援で通院しています。往診記録を一人1ページずつと個別化したのは、家族に医療関係者がいて「見たい」となったため、他は介護記録に記して、双方業務日誌にも残し共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を一人配置し、共に生活しながら体調不調時や処置への対応が行われている。緊急時には連絡を取り指示を仰げる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医・看護師・相談員と連携を図り、早期退院に向けての情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針や看取り指針について、契約時に説明を行っており、終末期のあり方については状態の変化に応じて家族と話し合えるようにしている。	看取り実績は15名余あります。開設当初のことを思い起こせば一種感慨もあるほど、現在は落ち着いて取組んでいます。契約時に重度化及び看取りについて説明するものの、「未だお元氣なのに忍びない」として、詳細に話し合うのは利用者本人の心身状態の変化の時としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、連絡先や傷病者カードとともに誰が見ても対応できるようにしている。年一回消防職員による救命処置の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練の計画をたて、様々な想定による防災訓練を定期的に行っている。年二回は地域の方・消防署と合同で訓練を行っている。	防犯等も含め毎月防災訓練を単独実施するとともに、敷地内の6事業所が一斉に取組む合同防災訓練も年2回あり、水消火器をはじめスモークや炊き出しと幅広く取組んでいます。また西館の新設では「高いところに避難場所が欲しい」との事業所意見も反映させ、実現しています。	防災メニューを豊富に揃えて実施できていることもあって、更に加えて個々の職員の体験・参加頻度について記録を残すことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己選択・自己決定を意識した声かけをするようにしている。接遇の勉強会を行い、家庭的で暖かい雰囲気を残しつつ、尊敬の気持ちを忘れないようにしている。	入浴後、衣類を選べそうな人は職員と一緒に居室に戻ってアレコレ話をもちつつ、有用感を支援しています。箸が動かない人には、口元に運ぶのは職員がおこなっても茶碗と箸は持ち自分で食事をする気分だけは味わってもらおう、といった細やかな配慮があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な機会に応じ、やりたいことや行きたいところ、食べたいもの等、日常生活の中で伺いながら希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、本人の気持ちを大切に、一人ひとりの希望に沿った支援が出来るように勤めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は自分で服を選んで頂いたり、行事のときは化粧をすることもあります。月に一回訪問理容の機会があります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から始まり食事をし、片づけまで共にすることで、話をしたり、季節を感じたり、楽しく食事をする事が出来ている。	職員の手づくりで、煮物や和え物など家庭の食卓に並ぶものが丁寧な下ごしらえとともに用意され、利用者も盛り付けを手伝っています。行事食は個々にインターネットなどで調べて結果として見事に成立しており、自主性を重んじる風土に職員意欲が養われていることが伝わります。	以前少し費用を上げたときは現状の献立を写真撮影して家族に確認してもらったこともあったとのことですので、今後も折々にお知らせすると、良いかと思えます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表にて確認できるようにしている。摂取量が少ない人には好きなものを提供したり、栄養補助食品を提供したりしている。状況に応じて量や物を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは一人ひとりの状況に応じ声かけや介助を行い、義歯は洗浄剤を毎日使用している。月一回口腔衛生指導を受け、必要に応じ受診・往診を受けることが出来る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。声掛けや誘導・介助方法についても常に検討し、不安や羞恥心にも気を配るようにしている	パターンを知るために排泄チェック表をつけてはいますが、強いて取決めはなく、表情や癖なども踏まえ、職員の気配りセンサーを働かせて、声かけや誘導をおこなっており、リハパンとパットだった人が現在布パンに向上した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量、運動量を管理するとともに本人に合わせ、乳製品や果物を提供したり、お腹を温めたり、マッサージをしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴で一人ひとりゆっくり入浴して頂いている。曜日や順序を決めることなく、回数や時間はその日の本人の気持ちに添えるようにしている。	週2日入浴を清潔の目安としつつも、本人の意向があれば増やすこともでき、重度化となっても安易にシャワー浴とせず、2人介助で湯に浸かる歓びを味わってもらえるよう支援しています。ただし、本人の心身に負担となるようならば併設のデイサービスの機械浴を利用できます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の空調や照明やタイミングは本人に合わせ、寝具は常に清潔であるよう気を配っている。ほとんどの方(重度の方以外)が日中は活動的に過ごし、夜は良眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し、用法・量・目的が記載され誰でも分かるようになっている。往診時には症状を相談し、変更時には記録・申し送りされている。チェックも複数の職員で行うような体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、ご家族様より情報を頂き興味のある事や出来ること・やりたいことをお聞きし、ご本人が楽しめる生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別外出の機会もあり、本人の興味のある場所に出かけています。行事などは出来るだけ家族にも声かけし、一緒に外出する機会を作るようにしている。	散歩は季節のよいときに限られますが、週1回程度はミニドライブが慣行され、塩見坂の足湯、海浜公園、うなぎの夕食など実績は枚挙にいとまがありません。法人内の車輛を借りることが出来る利便性も活かし、家族も一緒にガーデンパークをはじめ、他市にも足を延ばしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人の希望があれば家族と相談し、ご本人が所持するケースもありますが、ほとんどが事務所で管理し、買い物や外出時にお小遣いとして使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員がお手伝いして電話を掛けることができます。年賀状は出来る限り一緒に書いてもらって出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋でゆったりとした居間やには自然の光が入り、常に季節を感じる中庭を眺めることができます。壁には季節の掲示物が飾られ、落ち着ける雰囲気になっている。	北ユニットは利用者の脚があがらず活用が少ないため畳のこ上がりを撤去しています。大きな窓からの採光がレースカーテンで調整された空間にヒーリング系のBGMが流れていますが、珈琲とチョコレート、ジャズが好きな利用者のために曲調を替える日もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、広めの廊下には籐の椅子が置かれ、好きな場所でくつろげるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具などを置くことを提案している。女性の方は洋服を並べて選べたり、本人が心地よく過ごせる空間作りをしている。	備え付けの洗面台は、和風旅館によくあるような格子で目隠しされ、至るところに障子が使用されていて、奥ゆかしい趣が感じられると同時に、「田舎のおばあちゃんの家んにやってきた」ような安堵感も湧き、一人ひとりが持ち込んだ使い慣れた調度品とともに安寧が感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、分かりやすいように表札や目印をしたり、安全に生活できるよう手すりや感知照明を設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松 (南ホーム)		
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	平成31年1月12日	評価結果市町村受理日	平成31年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2297100253-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度は、西館の交流室も含め、地域の方に出入りしやすい場所の提供をしていくため、認知症養成講座としての場所の提供を行ったり今年度は、ご家族同士の交流ができるよう職員を交えての親睦会を行いました。施設も16年目と言う事もあり、入居者様の入れ替わりもありました。在宅を離れ施設への入居を考えるに当たり様々な葛藤がある中、家族同士の話し合いができ、家族の想いが聞けたことはとても有意義だったと思います。今後も入居者の介護度は重度化していきます。ご本人や家族の想いに親身に寄り添い、きららで過ごせてよかったですと感じて頂けるような生活のお手伝いができればと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「在宅での介護を経て入居を決めた複雑な想いを分かち合えたら」とスタートした家族親睦会は、本年度年1回が2回と増えています。その場で職員が介護に就いた想いを述べたことも、家族にとっては親近感となり、また一つ親交が深まっています。また運営推進会議で地域の高齢者への心配が多々話題となり、新事業所開設では多目的利用ができる『地域交流室』を設け、第2・第4土曜日を地域に開放し、無料ドリンクサービスや民生委員によるワンコインランチ、200円で使えるフィットネスマシンや電磁治療器に毎回30名以上が賑わい、家庭と地域、事業所へと境目のない予防と介護が実現し、新しいコミュニティの形を示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は見えるところに掲示し、意義を職員全員で意識し、尊敬と共感の気持ちを忘れず笑顔あふれるグループホームを目指しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りに参加したり、施設の駐車場を休憩所として提供したりしている。地域の保育園や子供会の子供たちとも行事を通して交流しあえる機会をもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の介護体験やボランティアの受け入れを積極的に行っている。地域の方に向けた認知症の勉強会を開催したり、認知症養成講座の開催に場所を提供させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、日常生活の報告をしたり、ご家族・地域・区役所からの意見を日々の生活や楽しみに活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の疑問や介護保険のことなど、運営推進会議で相談したり、分からないことは随時連絡して聞くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を年2回行い、3ヶ月に一回の委員会では事例や対応方法などを話し合い共有し合うようにしている。玄関の施錠は日中に時間を決めて開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行うとともに働きやすい職場環境づくりに努め、虐待に繋がらないよう話し合い、相談したりし合えるように気を配るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は勉強会は行えていないが、資料配布し、個人の尊厳を守る重要性を伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、疑問に応えながら納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意向調査を行ったり、面会時には出来る限り情報交換をしている。家族会や親睦会などでは要望をお聞きし反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回アンケートを行い、希望者には個別で話す機会を設け、意見を聞けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や安全衛生委員会を中心に残業や有休の取得状況を確認し、就業環境の整備に努めている。全職員のストレスチェックも行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加する機会を設け、研修内容については会議で伝達し、職員全体で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修に参加し、意見を聞いたりすることで、サービスに活かせるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とお話しさせていただき、不安な事やどのような生活をしたいかなど聞かせていただき関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、家族の想いをお聞きし、丁寧な対応を心がけ、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人はもちろん、ケアに携わる方から情報を集め、必要とされる支援を見極め、その時に適したケアの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を作ったり、買い物・掃除など家事を共にすることで、楽しく家族のように暮らせる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の情報を提供し一緒に過ごせる時間を作ったり、家族同士・職員ともお互いに支えあえる関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊はいつでも出来るよう声掛けさせていただいたり、個別外出では、馴染みの場所や好きな所に出かけている。行きつけの美容院の方が散髪に来て下さる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの性格を把握し、常に良い関係性が保てるよう職員が間に入ることでバランスを取りながら関係づくりをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、近隣の方は必要な新聞や布を持って来て下さったり、ボランティアや行事などに来て下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、利用者と向き合い意向や状態の把握に努めている。職員同士も情報交換し生活に活かせることを話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に収集した情報や面会時などご家族にお話を伺ったことなどを参考に、さまざまな方向から支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や言葉など、変化を見逃さないよう情報を共有し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいて、課題やケアについて振り返り、本人や家族の意向を確認しながらケアに反映できるようしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスにおける情報を参考に、モニタリングや介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リアルタイムで生まれるニーズを見逃さないよう柔軟な個別対応ができるよう努めている。コーヒーチケットを購入し、希望時に美味しいコーヒーを味わうなど。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生や地域のボランティアの方などとの交流により、刺激を受け日常を豊かに過ごせるよう協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医を決定し、受診している。担当医による月二回の往診と緊急時の連絡体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を一人配置し、共に生活しながら体調不調時や処置への対応が行われている。緊急時には連絡を取り指示を仰げる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医・看護師・相談員と連携を図り、早期退院に向けての情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針や看取り指針について、契約時に説明を行っており、終末期のあり方については状態の変化に応じて家族と話し合えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、連絡先や傷病者カードとともに誰が見ても対応できるようにしている。年一回消防職員による救命処置の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練の計画をたて、様々な想定による防災訓練を定期的に行っている。年二回は地域の方・消防署と合同で訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己選択・自己決定を意識した声かけをするようにしている。接遇の勉強会を行い、家庭的で暖かい雰囲気を残しつつ、尊敬の気持ちを忘れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な機会に応じ、やりたいことや行きたいところ、食べたいもの等、日常生活の中で伺いながら希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、本人の気持ちを大切に、一人ひとりの希望に沿った支援が出来るように勤めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は自分で服を選んで頂いたり、行事のときは化粧をすることもあります。月に一回訪問理容の機会があります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から始まり食事をし、片づけまで共にすることで、話をしたり、季節を感じたり、楽しく食事をすることが出来る。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表にて確認できるようにしている。摂取量が少ない人には好きなものを提供したり、栄養補助食品を提供したりしている。状況に応じて量や物を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは一人ひとりの状況に応じ声かけや介助を行い、義歯は洗浄剤を毎日使用している。月一回口腔衛生指導を受け、必要に応じ受診・往診を受けることが出来る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。声掛けや誘導・介助方法についても常に検討し、不安や羞恥心にも気を配るようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量、運動量を管理するとともに本人に合わせ、乳製品や果物を提供したり、お腹を温めたり、マッサージをしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴で一人ひとりゆっくり入浴して頂いている。曜日や順序を決めることなく、回数や時間はその日の本人の気持ちに添えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の空調や照明やタイミングは本人に合わせ、寝具は常に清潔であるよう気を配っている。ほとんどの方(重度の方以外)が日中は活動的に過ごし、夜は良眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し、用法・量・目的が記載され誰でも分かるようになっている。往診時には症状を相談し、変更時には記録・申し送りされている。チェックも複数の職員で行うような体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、ご家族様より情報を頂き興味のある事や出来ること・やりたいことをお聞きし、ご本人が楽しめる生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別外出の機会もあり、本人の興味のある場所に出かけています。行事などは出来るだけ家族にも声かけし、一緒に外出する機会を作るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人の希望があれば家族と相談し、ご本人が所持するケースもありますが、ほとんどが事務所で管理し、買い物や外出時にお小遣いとして使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員がお手伝いして電話を掛けることができます。年賀状は出来る限り一緒に書いてもらって出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋でゆったりとした居間やには自然の光が入り、常に季節を感じる中庭を眺めることができます。壁には季節の掲示物が飾られ、落ち着ける雰囲気になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳の部屋やソファがあり、窓際には椅子等が置かれ、好きな場所でくつろげるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具などを置くことを提案している。女性の方は洋服を並べて選べたり、本人が心地よく過ごせる空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、分かりやすいように表札や目印をしたり、安全に生活できるよう手すりや感知照明を設置している。		